

平成 25 年度

事 業 報 告

社会福祉法人豊生会

特別養護老人ホームひかりの
ショートステイひかりの
デイサービスセンターひかりの

平成 25 年度事業報告

部署名：特別養護老人ホーム

短期・中長期計画の達成状況

平成 25 年度は、ひかりのが開設した初年度であり、施設運営の体制づくりに力を注ぎ、ひかりのに入居された方々に寄り添って、1 日も早く落ち着いた穏やかな生活を送っていただけるよう心掛け事業を執り行ってきた。その結果、平成 25 年度の事業をほぼ滞りなく事業計画どおり実施し、また、法人全体の事業収支についても、当初予算を上回る収益を上げることが出来た。しかし、ショートステイ及びデイサービスセンターについては、利用稼働実績が予定を下回り、運営上厳しい結果となった。

施設運営においては、良質なユニットケアの実践のため、職員研修を実施して職員の質の向上を図りながら取り組んできたが、まだまだ、力不足のところがあり来年度の課題となった。また、施設内の多彩な行事や外出行事などにより、入居者・利用者の方々に活動の場を提供し、豊かな生活を送っていただけるよう取り組んできた。ダイバーショナルセラピーの実施はその一つであり、引き続き取り組んでいきたい。

そして、平成 25 年度は、3 名の方に対して看取りケアを実施した。入居者が穏やかな気持ちで最期を迎えられるように、ご家族と連携しながら、引き続き職員全員で取り組んでいく。

職員体制については、当初介護職員の不足が慢性化しサービスの質の低下が懸念されたが、限られた職員数で介護現場において支障を来さないように、なんとか乗り切ってきた。人材確保と人材育成は今後も施設運営上大きな課題となっている。

地域との交流活動については、近隣町内会開催の親睦会やひかりので開催した地域交流祭などに相互に参加し交流を深めた。社会福祉法人に求められている、社会貢献活動として、そして、地域に根ざした施設になるため、今後も地域の方々と相互交流を図ることにより信頼関係を構築していきたい。

平成 25 年度は、ひかりのの運営理念として「すべての方々に満足感・幸福感を提供する」を掲げて、各部署において業務に取り組んできた。開設初年度ということもあり、まだまだ、不十分などころがあるが、今後もこの地域で、入居者・利用者やご家族に良質なサービスを提供し、職員に対しては安心して働ける職場環境を整備するとともに、地域との関係を大切にしながら施設運営を進めていきたい。

重点取組事項の取り組み状況

1 「人材の育成」 人事考課制度導入準備とキャリアパス要件の確立

約1年間、社会福祉法人ファミリー特別養護老人ホームハピネスあだち小川施設長によるユニット型特養の管理運営方法や家族会、看取り援助等について毎月指導を受けながら大過なく開設初年度を乗りきることができた。人事考課制度については豊生会グループ全体での統一を目指し、マネジメント会社を変更して26年8月試行導入に向けて準備を進めている。

2 「入居率・利用率目標の達成に向けて選ばれる施設づくり」

- ①学習療法導入に向けて8名の職員が学習療法士1級を取得、ユニット家族懇談会やひかりのだよりなどで周知をし、入居者26人の受講申込を受け26年6月開始を目指して準備を進めている。
- ②ダイバーショナルセラピーの一環として、施設全体のオープン喫茶や歌声喫茶等を毎月開催。ユニット職員と家族が協力して外出行事や誕生会などを実施した。中でも一人の男性入居者の念願だった「日本ハムファイターズ観戦」を実現した。

3 「安定経営への取り組み」

予算実績報告会の開催が未実施のため、次年度には前年対比および目標達成に向けての課題分析ができる体制を作っていくたい。

4 「多世代が集える仕掛け作り」

開設前にすこやかクリニック原田院長からの寄付で、4階展望ラウンジ内にキッズコーナーを設置することができ、面会等にきた乳幼児の遊び場となっている。

家族等の面会者数は、平成25年5月から平成26年3月までの11ヶ月間で延べ7,852人、一日平均23.4人と予想以上に多くの方が来られた。

5 「障がい者団体との協働」

給食業務と清掃業務の一部を障がい者就労支援作業所と委託契約を結び、障がい者の就労訓練の場として提供している。

当別町農家の集団「高岡ファーマーズ」とNPO法人によきによきの協力で、当別町の新鮮な食材を給食食材として納入している。野菜即売会は25年は2回開催した。次年度は「軽トラ市」の名称で5月～10月の間定期開催を予定している。

平成25年度特別養護老人ホームひかりの実施事業

	地域活動	行事	研修	会議	見学	研修受入	行政
4月	24日～ 厨房・清掃担当 障がい者就労訓練受託	22日竣工引渡し 23日引越し 26日内祝会 30日朝日生命車イス 贈呈式 30日新築披露祝賀会	1日入社式 職員研修開始3週間	19日聖園薬局打合せ	26日グループ職員 内覧会 27日・28日・30日 一般内覧会 30日祝賀会出席者 内覧会	9日小川施設長・エイ デル研究所榎井氏 プレゼン	18日市竣工前検査 25日市竣工後検査 26日集団給食施設 設置確認(保健セン ター)
5月	2日介護新聞取材	1日ひかりの開所 入居者受入開始 17日DT歌声喫茶 展望ラウンジにて 30日豊生会新人歓迎 会ニューオーテック札幌	18日第32回社会福祉 公開講座(札幌) 30日～6月1日 小川施設長・エイデル 榎井様研修開始	9日第4会豊生会GP フォーラム事務局会議 17日入居検討会議 27日法人定例理事会	7日内藤東区長以下 5名施設見学 16日特養JA摩周 佐藤施設長見学 18日公開講座参加者 11名施設見学	14日豊生会新人職員 施設見学会8名 28日道高齢者保健 福祉課本間課長3名	
6月	8日藤見の会 西野ケアセンター 10日草刈作業開始 (ひかりの隣接草地) 27日地区社協訪問 (各町内会等取組確認)	3日職員面接開始 18日入居者80名 27日午前中の体操開始 第2回歌声喫茶	23日学習療法士認定研修 三橋・中川・竹田受講 25日嚙下研修(坂本ST) 26日～7月5日 たん吸引研修指導者研修 介護職員たん吸引研修 高慶・佐藤(千) 8日間	20日豊生会フォーラム 実行委員会	21日老健ひまわり 家族会施設見学21名 東区・北区病院事務局 施設見学15名	11日豊生会新人 職員施設見学	7日市介護サポート ポイント事業説明会 市ショート・デイ現地 確認 17日受水槽現地調査
7月	27日伏古共栄東町内会 夏祭り歌のコーナー(三橋・竹田)	7日おいら～く夏祭り プロレスター慰問 13日書道教室実施 16日移動売店開始 31日第3回歌声喫茶		9日第4会豊生会GP フォーラム事務局会議	3日札幌大栄習生見学 12日札幌市建設協会 会員40名見学 自閉症者支援センターゆい 職員2名見学		1日ショート・デイ運営開始
8月		1日東苗穂病院夏祭り 8日はとぼっぽ保育園 10日夏祭り盆踊り大会 19・21日オープン喫茶 27日花火大会・中止 28日第4回歌声喫茶		24日家族懇談会60名			
9月	8日ライオン町内会懇親会	14日札幌市立大学 & 社会福祉法人ゆうゆう ジョイント「ひかりの地域 交流祭」 16日敬老会 25日第5回歌声喫茶	30日 お菓のお話 聖園薬局構本薬剤師		30日 滝川市市議会 行政視察16名		
10月		12日 野菜即売会 共催:社会福祉法人ゆうゆう 23日感謝を込めて贈呈式 23日第6回歌声喫茶	6日 第4回豊生会GP フォーラム:プリンスホテル 21日第1回看取り委員会 30日第1回スクエーデンの社 会保障を学ぶ講演会	22日入居検討会議	9日石狩支庁民生児童 委員26名施設見学 9日木古内町福祉施設 職員施設見学 11日ハローワーク福祉職場 施設見学15名	8日豊生会新人6名 職員施設見学	7日東区災害時要保護 者支援ネットワーク打ち合 わせ
11月		文化の日作品展 3日～7日 27日第7回歌声喫茶 30日豊生会望年会 パークホテル	5・11・14・21日看取り 研修(介護職57名) 11日～ユニットリーダー研修 秋本リーダー・実習清明 12日緩和ケア在宅ホスピス ～いのちとの関わり～ 20日感染症について すこやか原田院長 25日特養青葉のまち見学 28日DT・SONASセッション 岸澤理事長 17日備そ予防のポジ ショニング 東苗穂HP・PT	6日入居検討会議 11日法人定例理事会 19日入居検討会議	26日北ひろしま福祉社 施設見学		5日東区第1回施設と運 携防災訓練(大友敬愛 園にて)
12月	14日札幌市立大学取組 発表会・ひかりのリビング (桑園キャンパス)	11日オープン喫茶 18日第8回歌声喫茶 20日ドール君と若手選手 24・25日ユニット・デイビス クリスマス会 27日仕事始め	20日感染症について すこやか原田院長 25日特養青葉のまち見学 28日DT・SONASセッション 岸澤理事長 17日備そ予防のポジ ショニング 東苗穂HP・PT	4日入居検討会議			
1月	19日ライオン町内会新年会	6日仕事始め 10日もちつき大会 22日オープン喫茶 29日第9回歌声喫茶	26日デイサービスてんや わんや本町施設見学 28日第2回看取り委員会 30日道老人福祉施設長 研修セミナー	10日入居検討会議 18日全体会議(次年度 方針説明) 22日法人臨時理事会 理事・監事の選任			16日道補助金監査
2月		19日オープン喫茶 27日第10回歌声喫茶		14日福祉厨房会議 25日入居検討委員会	3日札幌市手をつなぐ育 成会各支部長含10名施 設見学 7日東区長田保健福祉 部長来訪		12日札幌市指導監査
3月		8日～9日 ①ユニット懇談会 12日オープン喫茶 15日～16日 ②ユニット懇談会 26日第11回歌声喫茶		13日福祉厨房会議 25日入居検討委員会 25日法人理事会 26年度事業・予算(案)			27日受水槽定期清掃 28日水道検査 水道サービス協会
備考							

平成 25 年度事業報告

部署名：事務課

短期・中長期計画の達成状況

<短期計画>

1 安定経営を図る

- ・ 毎月、月次財務諸表を作成し、合わせて月次予算実績対比表を作成することにより、予算管理を行った。適正な予算執行に努めることができた。
- ・ 随時、資金計画表を作成することにより、資金管理を行った。資金不足になることもなく、適正に執行することができた。
- ・ 施設開設初年度であり、特にショートステイ、デイサービスセンターの稼働が予定を下回った中で、特別養護老人ホームの稼働が目標を達成していたことから、財政的には、安定した経営を行うことができた。
- ・ 介護系の役職者に対し、収支状況を報告することにより、施設の財務状況を共有することができた。今後は、現場の職員が施設の状況を認識した上で、より良いケアを実践し、稼働率アップに繋げていく。

2 職場環境を整備する

- ・ 現場業務がスムーズに行えるように、ハード面において、施設設備の修繕や介護機器等の整備を迅速に行った。

3 近隣地域との関係を構築し、相互交流を図る

- ・ 地域住民の方々の活動に参加した。

①	25. 9. 8	ライラック町内会第 2 回親睦会に参加	1 名
③	26. 1. 19	ライラック町内会新年会に参加	2 名
- ・ ひかりのの活動に参加していただいた。

①	25. 9. 14	ひかりの地域交流祭 札幌市立大学・社福) ゆうゆうとジョイント開催
②	25. 10. 12	当別町野菜即売会 社福) ゆうゆうと、当別町産の新鮮野菜即売会を開催
③	26. 1. 31	ライラック町内会役員打ち合わせ
- ・ 地域住民の方々と、上記のとおり相互交流を図ることができた。今後は、さらに、関係を深めていく。

4 その他

- ・ 消防訓練実施時に、ライラック町内会役員の方々が立ち会うことにより、災害時の体制についてご理解いただいた。今後は、地域住民の方々とどのような連携が図れるか検討していく。

〈中期計画〉

1 地域とのつながりを強化する

- ・ 平成 25 年度については、地域住民の方々の活動とひかりの活動とを相互に参加し合うことにより、交流を図ることができた。今後は、お互いが協働できるような取り組みを模索していく。また、地域住民の方々をボランティアとして積極的に受け入れていく。

〈長期計画〉

1 近隣地域の拠点となる

- ・ 近隣地域の拠点となるためには、地域住民の方々が、気軽にひかりの足を運んでもらえるような施設になる必要がある。そのために、交流ホールや多目的室の活用について検討していく。また、施設の機能を地域で活用できないかについても検討していく。

平成 25 年度事業報告

部署名： 生活支援部

短期・中長期計画の達成状況

<喀痰吸引・胃瘻利用者の受け入れ>

特養の役割として挙げられている重度利用者の受け入れを行うためには、医療依存度の高い利用者の受け入れを必要とするため、職員の外部・内部研修の受講、看護師体制の見直しを図り柔軟に対応できるよう準備を進めている。

<看取り>

平成 25 年度は、3 名の方から施設内での看取りの要望があり 2 名の方の最期に対応した。初めて経験する介護職員は戸惑いも多くあったが、職員教育やご家族様との相談、医療体制の整備等、課題として見えてきたものがあるため、今後も学びを深めていきたい。

重点取組事項の取り組み状況

1. 安心して暮らせるケアの提供

1) 暮らしやすい環境を整える

①ユニット毎で生活を感じることができるよう設えの工夫を行う

開設時にユニット職員が設えについての話し合いを行い買い出しに行ったり、ユニット費で購入したりとユニットごとに特徴のある過ごしやすい環境が整えられてきている。

しかし、居室については、まだまだ馴染みの家具の持込みが少ない方もいるため、ご家族に協力していただくよう働きかけていく。

②入居前の環境が継続できるように他職種による情報共有と環境整備を図り転倒を予防する
入居前の生活状況等の情報収集を行い、そのことを踏まえながら、ケアプランを作成し、入居者様個々の生活リズムを崩すことなく、生活を送れるように支援を行ってはきたが、プランを活かしきれていない部分も多くみられる為、今後、ケアプランに対し理解を深めることが必要。
環境面では、自宅での家具の配置等に配慮して安心して生活を送れるように支援を行った。

その結果、大腿骨頸部骨折は1件、転倒による圧迫骨折0件となっている。

③整理整頓・感染予防に対する対策を行い感染症の発生を防ぐ

職員・入居者のうがい手洗いの励行、スタッフへの声かけを行っており、月1回の感染対策委員会にて感染症対策について都度情報共有を行っている。冬季にインフルエンザの罹患（入居者1名、職員3名）はあったが、単独発生であり感染の拡大はなく、それ以外の感染症の発生もなかった。

居室清掃、室温・湿度に関しては課題もあることから次年度も継続して取り組みたい。

2) ケアの標準化を図る

入職時には1ヶ月間の採用時研修を実施、その後は研修委員会を中心とした内部研修会を月1回定例開催した。また中途採用者に関しては月初めに集合研修を実施し、ケアの標準化に努めた。勤務の都合上、研修の参加率が悪かったため、来年度は、研修時間や回数なども考慮し全員が研修を受けることができるようにしていきたい。

3) 日中おむつ利用率30%

TENAアドバイザーの協力もあり、入居者個々の排泄アセスメントを実施し状況に合わせたオムツを使用している。また、安易な下剤の使用を見直すために排便アセスメントを実施し、研修会にも3名の職員が参加し取り組みを強化している。

現在、排便の為のおむつ使用者は22.5%（18人）、今後も、排泄アセスメントを行って、オムツ使用率の減少に努めていく。

II. 院内・院外研修により個々のスキルアップを図る

入職時の職員アンケートより興味を持っている内容、業務を遂行するに当たり必要な内容を選び内部研修を実施した。

【内部研修】

月 日	内 容	参加者数
6月18日	「疾患別移乗方法について」	22名
7月25日	嚥下障害について	13名
8月26日	認知症の人とのかかわり方	16名
9月30日	薬に関わる注意事項	19名
11月20日	これから流行する感染症	22名
11月22日	施設見学『青葉のまち』	7名
12月17日	褥創予防のポジショニング	20名
12月26日	施設見学『デイサービスセンターてんやわんや』	8名
2月26日	福祉用具	12名
3月26日	認知症事例検討会	21名

【外部研修】

ユニットリーダー研修 1名

全国先端ケア研修 2名

介護職等喀痰吸引研修 2名

介護職等喀痰吸引指導者研修 2名

キャリア段位アセッサー講習 1名

公文学習療法学習療法士1級 8名

その他、グループ法人の研修に多数参加

経験に基づいた集合教育の研修を立案していたが、職員の退職等により実施が難しい状況であった。介護技術のみならずスキルアップを図るために教育プログラムを立案し実施していきたい。

III. 業務を整理することにより効率化を図る

1) マニュアルの整備

各委員会（感染対策、身体拘束・虐待、事故防止、苦情など）を中心にマニュアルの見直しを実施し現状に見合った内容に修正を加えている。

ユニットリーダー会議月2回、ユニット会議月1回、支援部会議月1回など部署会議の充実を図り、課題を迅速に解決できるよう努めている

Ⅳ. 稼働の安定を図る

1) 体調不良による入院者を減らし、年間入居稼働率90%を確保する

口腔ケアの徹底、歯科医による歯科健診や口腔評価によるケアの実施、感染症対策として外出後の手洗いの励行を実施。ノロウイルス対策として、感染対策セットを作成し発生時の具体的対応方法を10回に分けて実施した。

また、入居者1名よりインフルエンザの罹患が確認された時点で、居室対応・面会制限等の迅速な対応を行い他入居者への感染は認められない。

入院者数

入院月	入院者数	合計入院日数	主な入院疾患
5月	1名	8日	逆流性食道炎
6月	4名	35日	胃精査、肺炎他
7月	7名	69日	小脳梗塞、脱水、肺炎他
8月	6名	101日	肺炎・脳梗塞他
9月	5名	44日	肺炎・脳梗塞
10月	2名	50日	肺炎・パーキンソン病増悪
11月	7名	74日	肺炎・心不全・脳梗塞他
12月	6名	60日	肺炎・小脳梗塞・肺炎
1月	8名	99日	大腸精査・貧血精査・尿路感染症・肺がん他
2月	6名	54日	嚥下機能検査
3月	3名	16日	腎不全・肺炎他

年間入居稼働率は90%で、満床を迎えた7月以降では95.6%の稼働であった。

今後は各部署と連携を図り、退居から入居までの期間を短縮できるよう取り組んでいきたい。

2) 日常生活継続加算（要介護4・5：70%以上）

平均要介護3.6、認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上が65%以上にて日常生活継続加算が算定できている。

今後、重介護者の介護技術のみならず認知症に対する理解を深め援助スキルの向上に努めていきたい。

平成 25 年度事業報告

部署名： 相談課

短期・中長期計画の達成状況

<短期計画>

- 1、入居者の一人一人の生活リズムを把握し、ニーズにそったケアプランを作成する。
- 2、入居者とそのご家族との架け橋の役割として機能する。
- 3、地域に受け入れてもらえる施設にする。

1 については、24 時間シートの導入や入居前の丁寧なアセスメントを行い、入居前と入居後の生活が連続性のあるものとなるよう努めている。ただ、入居前の居場所が病院や施設である方が多く、すでに画一的な生活環境・生活リズムで過ごしている方がほとんどだった。今後は入居前後の生活の継続だけではなく、自分なりの生活の構築・復元という視野も含め、アセスメントしていく必要がある。

2 については、比較的頻回に面会に来られているご家族様とは、日頃より様々な情報交換や意思の確認等のやり取りができてはいるが、なかなか面会に来られないご家族様については、密に連絡は取り合えていない。26 年度は家族会が発足し、よりご家族様からひかりのに対する能動的な働きかけが見込めるが、家族会もあくまで希望者のみの加入となり、加入されなかったご家族への対応も検討する必要がある。

3 については、ボランティアの受け入れや施設行事の地域開放を進めてきた。少しずつではあるが地域の方にもひかりのの存在を認識されてきている。今後も地域へ向けた様々な仕掛けを作っていく必要がある。

<中期計画>

- 1、入居者の希望に応じることができるサービスを提供、開発する。
- 2、施設の地域開放を進める。

1 については研修委員会による施設内研修の定期開催や、施設外への研修参加による技術の向上、知識の習得に努めている。26 年度も研修について引き続き継続していくと共に、ダイバーショナルセラピーや学習療法を本格始動させるため、新たなサービス提供として浸透させていく。

2 については当別町の農家と社会福祉法人ゆうゆうと共同で野菜の直売の開催や、札幌市立大学のデザイン科の協力のもと、地域交流祭を行うことができた。26 年度についても野菜の直売を定期開催することとなり、そのほか夏祭りを地域の他事業所を含めて開催する計画を立てるなど、地域に向けた行事を企画しているところ。

<長期計画>

- 1、入居者が安心して自律した生活を営むことができる施設にする。
- 2、入居者のご家族や地域から信頼される施設にする。
- 3、地域に開かれた、透明性のある施設にする。

いずれも「施設にする」という語尾の長期目標については、現時点では今その第1歩に立ったところと言える。短・中期計画の積み重ねが長期計画の実現であり、さらにこの長期計画は法律や制度の変動に揺らぐことなく目指すべきところとして見据えていく。

重点取組事項の取り組み状況

- 1、入居者一人一人の生活を把握し、適切なケアプランを作成、実施する。
 - ・適切なアセスメントの方法を確立する。
 - ・入居者のニーズを把握し、柔軟な対応方法を多職種と協働する。

アセスメントの方法については、オリジナルの様式を採用しているが、ADLの評価はできるものの、ニーズを把握することに関しては不十分なところがあるため、26年度には見直しをする必要がある。

ニーズの把握については入居時と介護保険の更新時にはご家族様を含めたカンファレンスを実施し、適切なケアプランの作成を行うことができている。ご家族様が参加できない場合も、電話等でご意見等を伺い、かならず様々な職種がカンファレンスに参加して実施できている。

- 2、地域とのかかわりを密にし、入居者の暮らしを豊かなものにする。
 - ・ボランティアを積極的に受け入れる。
 - ・地域の行事に、入居者とともに参加する。
 - ・家族会を組織し、具体的な協力方法を確立する。

ボランティアの受け入れ状況は25年度で延べ58名（実人数15名、内介護サポートポイント事業利用者1名）で、内容は主にユニット内のお茶出し等の補助や、レクリエーションの支援で、他には夏祭りなど施設の催事に関するお手伝いではご家族様を含めて地域の方も1名参加された。26年度は家族会を設立する準備を進めているため、今後の催事の手伝い等には家族会による支援等も期待できる。

地域の行事に入居者とともに参加することについては、行事ではないものの外出レクを秋に実施し、買物や外食などを楽しんでいただくことができた。26年度は各ユニットで春から適時外出行事を実施しており、少しずつ入居者が外に出ていく機会を設けている。送迎車や付き添う人員等の確保に課題はあるものの、今後も続けていきたい。

1) 稼働状況 (単位は日)

	特 養					ショートステイ	
	利用日数	入院日	外泊	空室	稼働率	利用日数	稼働率
5月	1022	8	1	1449	41.2%		
6月	2284	35	2	79	95.2%		
7月	2383	69	1	27	96.1%	75	13.4%
8月	2323	101	3	53	93.7%	163	29.2%
9月	2281	44	2	71	95.0%	196	36.3%
10月	2391	50	3	36	96.4%	159	28.5%
11月	2280	74	2	43	95.0%	195	36.1%
12月	2401	60	5	13	96.8%	185	33.2%
1月	2356	99	21	26	95.0%	234	41.9%
2月	2164	54	0	38	96.6%	244	48.4%
3月	2461	16	1	2	99.2%	274	49.1%
計	24346	579	40	1835	90.8%	1725	35.0%

2) 平均介護度

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男	3.6	3.7	3.7	3.8	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.7
女	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3	3.5
平均	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.5

3) 平均年齢

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男	82.5	80.5	80.6	80.3	80.8	80.2	80.3	81.2	81.2	81.4	81.7	80.9
女	86.6	86.7	86.8	86.8	87.0	87.1	87.1	87.5	87.4	87.8	87.6	87.1
平均	85.6	85.0	85.1	85.0	85.3	85.4	85.4	86.1	86.1	86.3	86.2	85.6

4) 退居者 (3月末現在) ※ () 内の数字は看取り対象者数

	永眠 (施設内)	永眠 (病院)	入院	在宅復帰	計
男	1	2	2	0	5
女	3 (2)	3 (1)	2	0	8
計	4 (2)	5 (1)	4	0	13

5) 入退居の動向

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居	66	14	0	1	1	3	1	2	2	2	1	93
退居	0	0	1	1	3	1	1	1	2	2	0	13

平成 25 年度事業報告

部署名： 栄養課

短期・中長期計画の達成状況

〈短期計画〉

①食事提供に関わる体制の確立

献立や作業マニュアルを随時見直すことを実施できた。

②食品衛生管理体制の充実と食中毒予防

衛生講習は未実施。衛生管理と食中毒予防に関しては、日頃から周知し守れてきた。

③障害者就労支援の内容確立

福祉側との内容の詰めが不備である。

〈中期計画〉

①安全な食品納入による美味しい食事の提供 個人に合わせた食事の提供

業者とのやり取りは順調である。食事提供に関しては、さらなる職員間の意識統一は必要である。

②食を通して地域に関わっていく

農作物の販売は 1 回実施。情報発信については、H26 年度に計画的に進めていく。

〈長期計画〉

①安心・安全で家庭的なおいしい食事を一人一人に合わせた食形態で提供する。

栄養マネジメントは画一的になってしまった。調理、献立内容に関しては、人員が少ない中何とか進めている状態。創意工夫が求められる。

②地域に暮らす、すべての年代の方々と食を通して交流していく

地域との交流はまだ不備である。

重点取組事項の取り組み状況

①入居者のニーズに合った食事を提供する

栄養マネジメントの内容が画一的になってしまった。個人対応は実施できているが、より複雑化・重症化に向けて検討が必要である。

献立内容・盛付け・食器の工夫など、課題点がたくさんある。入居者、ご家族、職員の意見を参考に内容を検討、質の向上を目指す。

②季節に合わせた行事食を実施する。

十分ではないにしろ、行事食は提供できた。数回は、祝日にちなんだカードを添えた。

③各部門とのコミュニケーションを図る

定期開催の会議、委員会には参加し、各ユニットスタッフをはじめとする各部門スタッフとの意見交換は実施してきた。ただし十分とは言えない場面もあるため、次年度はより積極的に関わっていく。

④食品衛生管理体制の充実と食中毒防止に努める。

調理工程の確立は、人員不足のためその時々で変化させる必要があった。確固とした工程はまだ未確立である。業務マニュアルについては、随時作成、見直し、変更を行っている。

各ユニットへの衛生知識啓蒙は、実施できていない。

平成 25 年度事業報告

部署名：ショーステイ ひかりの

短期・中長期計画の達成状況

平成 25 年 7 月に開設し、2 ユニットのうち 1 ユニットのオープンに留まってしまった。当初は開設半年後には稼働 70% の達成を目標にしていたが、職員の補充や利用ニーズとの兼ね合いで、50% 程度と約半分の稼働となっている。

利用状況をみると、毎週・毎月利用する方やミドル的な長期利用者のニーズも高く、この半年で入所へ移行された方も 3 名にのぼる。長期利用者の移行は、稼働状況への反映にもつながり、随時新規利用者の獲得が必須な状況となっている。また、リピーター率の向上や平均滞在日数の伸びも大きく左右する為、様々な対応力が求められている。

重点取組事項の取り組み状況

利用者への対応

ショーステイの利用者のご家族の相反する関係性や、環境変化に伴う認知機能からの心理症状への対応、病状変化・管理体制など、応用力が常に求められた。ケースを通じ学ぶという事後の対応となっていたが、徐々に順応する力も芽生え、日中活動のあり方や個々のニーズにも応えられるようになってきている。これは、職員の人員体制が確保されてきている点と比例しており、稼働率の向上に合わせ人員体制も整えていく必要がある。

相談体制

1 か月の入退所が 60 回を超える日もあり、ご家族や担当のケアマネージャーへの情報提供の在り方に配慮してきた。ただ、送迎時の申し伝えや利用状況を書面にて報告していたが、適正な情報を伝えきれていたか、再度見直す必要性を感じている。

また、利用に伴うご本人やご家族の心理的負担感を軽減するため、新規相談時のアプローチ等も検討が必要である。

平成 25 年度事業報告

部署名：デイサービス ひかりの

短期・中長期計画の達成状況

当期の稼働を 60%としていたが、年度末で稼働 40%と低迷してしまった。当初よりショートステイ併設型の事業所として営業を行っていたが、デイサービスとしての特徴を明確にできなかった反省がある。また、認知デイとして、ご自宅での継続した生活が困難となり、グループホームや特養への入居が決定するなど、利用中止となるケースもあった。25 年度は、稼働低迷の部分を人件費の縮小で乗り切ることができたが、ショートとの併用施設である特徴をより強固にし、新規登録者の確保に努めたい。

重点取組事項の取り組み状況

デイの特徴を追求していく中で、広々とした空間から「時間に追われない雰囲気」を好まれご利用される方や、施設見学してデイを選択される方が増えてきている。
新規の居宅介護支援事業所からの紹介は少ないが、もともとつながりのあった居宅介護支援事業所からご紹介されるケースが多く、新規居宅介護支援事業所へのアプローチへの方法に課題がある。
12 月頃からは、デイサービスの利用者がショートステイの利用を開始される方や、ショートステイと併用利用者の為にご紹介される方が増え始め、今ある特徴をより明確にし、新規居宅の開拓を今後の目標としたい。